

新型コロナウイルス感染症関連での食肉業界の販売動向等

コロナ禍の食肉をめぐる状況（2021年9月報告）

【要約】

2021年9月17日

公益財団法人日本食肉流通センター

（部分肉価格（首都圏））

- ・牛部分肉「セット」価格は、和牛「4」で、2020年前半にコロナの影響により低下するが後半から回復し、2021年にはコロナ前を上回って推移。乳牛はコロナ以前から変わらず安定して推移。
- ・部位別価格では、和牛はももセットが2020年7月以降コロナ以前を上回り、ヒレとロインは遅れて回復するがヒレはコロナ以前に届かず。乳牛のももセットは以前の水準で安定推移する一方、ヒレとロインは低下し回復みられず。

（食肉販売状況／食肉需要）

- ・2021年7月の事業者聴き取りでは、「和牛ロイン系は荷動きが鈍い。」、「焼肉、居酒屋等の外食は非常に厳しい。」、「ロインは輸出用に回している。」など。
- ・牛肉の推定出回り量は、2020年、2021年1～7月ともに前年を下回り、コロナの影響から回復がみられるという状況にはない。

（牛肉輸入）

- ・牛肉輸入量は、2020年、2021年1～7月ともに前年を下回り、この間、特にロインの輸入量は大きく減少。「ロイン系は荷動きが鈍い」との業界報告は輸入物にも共通。

（牛肉輸出）

- ・順調だった牛肉輸出は、コロナの影響が出る2020年に入ってから同年5月まで減少に転じ、特にロインの減少が大。
- ・2020年後半から回復傾向に転じ、2021年3月以降ロインを中心に大きく増加。
- ・2021年1～7月には、国内ロイン系生産量の2割程度が輸出向けと推測され、輸出は国内のロイン需給改善に寄与。

（以上）